氏　　名	新竹　優子
学位の種類	博士（コーチング学）
学位記番号	博甲第　９１５５　号
学位授与年月	平成　３１年　３月　２５日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	段違い平行棒における〈後ろ振り～前方かかえ込み 2 回宙返り下り〉の動感促発指導に関する発生運動学的研究
主　　査	筑波大学教授　博士（コーチング学）渡辺良夫
副　　査	筑波大学教授　博士（コーチング学）佐野　淳
副　　査	筑波大学助教　博士（コーチング学）山田永子
副　　査	育英大学教授　博士（体育科学）　朝岡正雄

論文の内容の要旨

新竹優子氏の博士学位論文は，発生運動学の研究方法に基づいて段違い平行棒における前方 2 回宙返り下りの動感促発指導に不可欠な情報を明らかにしたものである．その要旨は以下のとおりである．

（目的）

現在の段違い平行棒においてトップランクの選手のほとんどが下り技としてかかえ込みムーンサルト下りを実施しており，演技のモノトニ―化現象が大きな問題となっている．この現状を打破するためには，かかえ込みムーンサルト下りとは異なる高難度の技の技術と練習法の解明が必要である．本研究の対象となる前方 2 回宙返り下りは，モノトニー化現象の打破に貢献する技であると同時に，高得点を獲得するための選択肢として大きな価値をもつ技であるが，技術や練習法に関する研究は立ち遅れている．つまり，前方 2 回宙返り下りのトレーニングは，現場の選手やコーチの試行錯誤に任されているのが現状なのである．前方 2 回宙返り下りの練習や指導に必要な情報が解明されれば，この技の習得経験あるいは指導経験を持たない指導者がトレーニング場面において試行錯誤による無駄な労力と時間を省くことにつながり，日本女子体操競技の競技力向上あるいは体操競技コーチング論の発展に寄与することができる．本研究の目的は，前方 2 回宙返り下りの創発事例と促発事例のふたつの事例の分析を通して，前方 2 回宙返り下りの動感促発指導に不可欠な情報を明らかにすることである．

（対象と方法）
研究の目的を達成するために，本研究は以下の 4 部から構成されている．
第 1 部：本研究の目的と本研究で用いられる発生運動学の研究方法が明らかにされている．
第 2 部：体操競技において世界選手権大会やオリンピックの日本代表を経験した女子体操競技選手（筆者自身）の前方 2 回宙返り下りに関する動感創発事例が分析され，この技の学習プロセスの中で高度な安定性を獲得するまでの動感意識の様相変動が創発分析論の立場から明らかにされている．
第 3 部：大学入学を契機に前方 2 回宙返り下りの分裂危機に陥った女子体操競技選手（A 選手）に対し筆者自身が指導者として動感促発指導を行った事例が分析され，指導のプロセスで生じた様々な学習障害を克服するために用いられた手段と動感促発の手順が明らかにされている．
第 4 部：研究のまとめと今後の展望が示されている．

（結果と考察）
第 1 部：近年における段違い平行棒の下り技の傾向を分析することを通して，現在，下り技において演技のモノトニー化が大きな問題となっていることと，その現状を打破するために前方かかえ込み 2 回宙返り下りの動感促発指導法の解明が不可欠であること，そのためには現象学的運動分析の方法を用いた事例研究が必要になることが確認され，その方法として発生運動学における創発分析論と促発分析論の研究方法が明らかにされている．
第 2 部：高度な形成位相に達した女子体操競技選手の前方 2 回宙返り下りに関する動感創発事例の分析を通して，この技において高度な安定性を獲得するまでの動感意識の様相変動の特徴が発生運動学における形成位相論に基づいて構造化されている．
第 3 部：大学入学を契機に前方 2 回宙返り下りの分裂危機に陥った女子体操競技選手（A 選手）に対して筆者自身が指導者として行った動感指導事例を促発分析論の立場から分析することを通して，この技の指導の中で生じる様々な学習障害を克服するための動感アナロゴンとそれらを学習者に処方する方法が明らかにされている．
第 4 部：本研究で明らかにされた学習展開のプロセスや学習障害の諸類型は，指導の際に学習者の動感形成位相を評価し，指導の先行きを予描するための先行理解を提供することが明らかにされ，さらに，学障障害を克服するために用いられた様々な動感アナロゴンやつまずきの対処法は，指導者が個別の学習者にオリジナルな道しるべを構成化し，指導展開の全体を投企するための枠組みを提供したものと結論付けられている．最後に，前方 2 回宙返り下りの事例を分析する中で浮き彫りになった形成位相の進行と様相変動の特徴，動感修正指導固有の問題点は，この技にとどまらず，体操競技のあらゆる技の指導に役立つことが明らかにされている．

審査の結果の要旨

（批評）
以上の考察を通して，本研究における成果は，前方 2 回宙返り下りの動感促発指導を行う指導者が学習展開の先行きを予描し，類似した情況に遭遇した際に重要な意味発生に気づく可能性と，指導介入行動の選択肢と実行する動機づけを提供することが明らかにされ，本研究が前方 2 回宙返り下りの動感促発指導に不可欠な基礎情報を提供したものと位置づけられる．それゆえ本研究は，発生運動学的研究法を用いた事例研究によって段違い平行棒における前方 2 回宙返り下りの動感促発指導に不可欠な情報を提示した，コーチング学にふさわしい，きわめてオリジナリティーの高い研究と評価できる．今後はさらに運動指導の事例研究を積み重ねて，多様なスポーツ種目における応用研究へと発展させることが期待される．

平成 31 年 1 月 28 日，学位論文審査委員会において，審査委員全員出席のもと論文について説明を求め，関連事項について質疑応答を行い，最終試験を行った．その結果，審査委員全員が合格と判定した．
よって，著者は博士（コーチング学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める．